

小児保隙装置

永久歯への交換時期ではない**乳歯を抜く**必要がある場合、どのように判断することが最善か、ご存知ですか？

交換時期ではない乳歯を抜くことは永久歯の歯並びに大きく影響することがあります。また、お口の様々な機能に悪影響が生じることがあります。



大きなむし歯で抜く必要がある場合



外傷により前歯が抜けた場合

歯の隙間を保つ装置＝保隙装置

むし歯や外傷などで永久歯への交換時期ではない乳歯を抜歯することになった場合、抜いた歯が奥歯の場合は抜いた歯の隣の歯は抜いた歯の方向へ傾いていきます。

このことで後から萌える永久歯が出てくる場所がなくなり、結果的に歯並びが悪くなったり、場合によっては永久歯が出て来れない場合があります。このことから、抜いた乳歯の後に萌えてくる永久歯のスペースを保持しておく必要があります。また、抜けた乳歯が前歯の場合、見た目や発音、舌の運動などに影響が出てくる場合があります。

以上のことを予防する装置が

「隙間を保つ装置である『保隙装置』です」

保隙装置には保険適応のものと私費になるものがあります。保険か私費かについては抜ける場所や抜ける理由によります。



保隙装置の種類

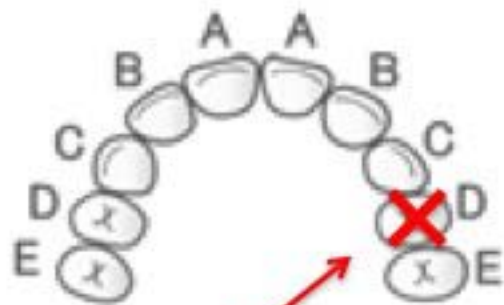
| | 抜いた歯 | 保隙装置の種類 |
|---|-----------|----------------|
| ① | 乳歯の臼歯1本 | バンドループ(一部保険適応) |
| ② | 乳歯の前歯1本以上 | 入れ歯型装置(私費診療) |
| ③ | 上の乳歯の奥歯2本 | ナンスの装置(私費診療) |
| ④ | 下の乳歯の奥歯2本 | リングルアーチ(私費診療) |



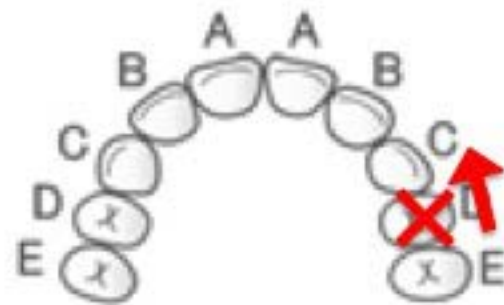
それぞれの装置について

それぞれの装置について、以下に具体的に説明致します。

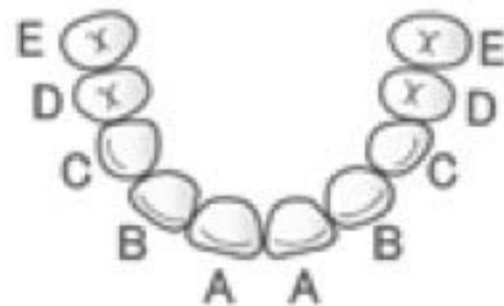
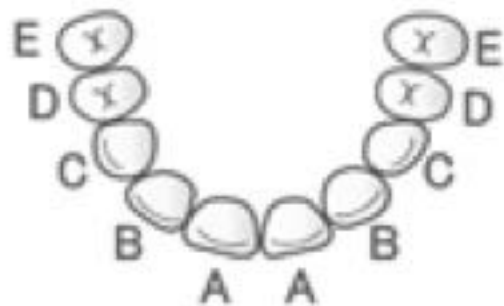
歯を1本喪失する場合



虫歯などで抜歯



後ろの臼歯が前へ移動する



永久歯のはえるスペースがなくなる



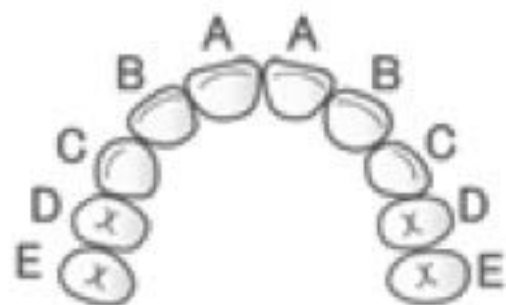
永久歯の歯並びが悪くなる

バンドループ

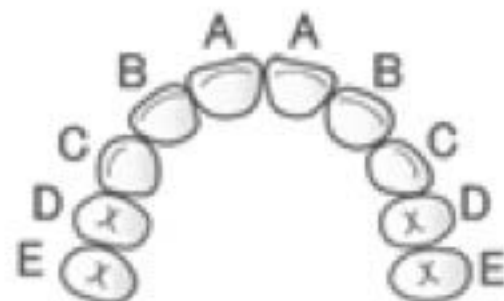
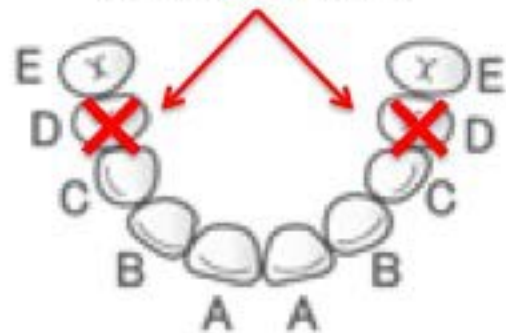
保険診療適応



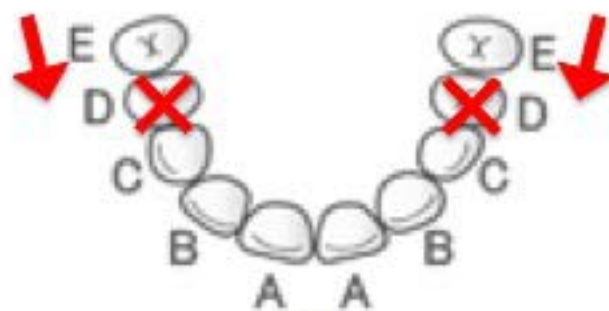
下の奥歯を複数本喪失する場合



虫歯などで抜歯



後ろの臼歯が前へ移動する



永久歯のはえるスペースがなくなる



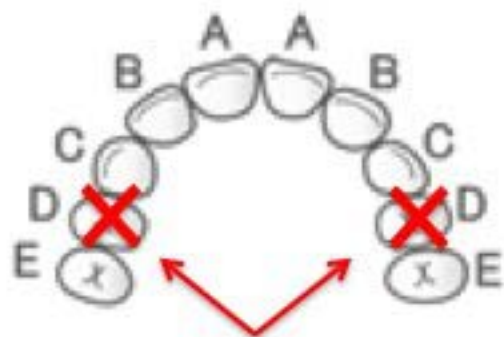
永久歯の歯並びが悪くなる

リンガルアーチ

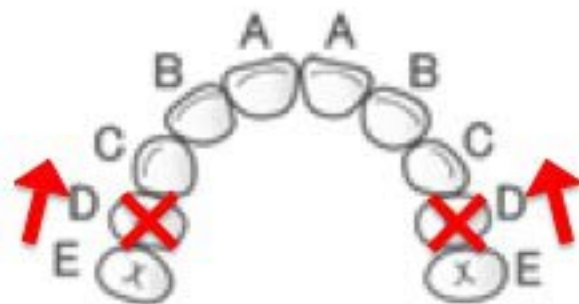
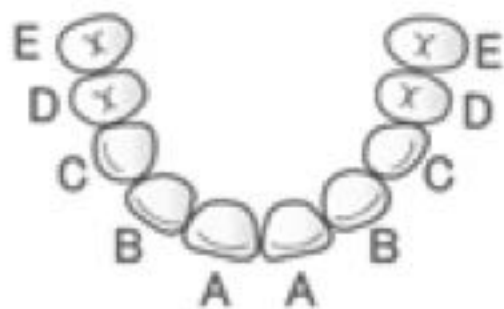
保険診療適応外



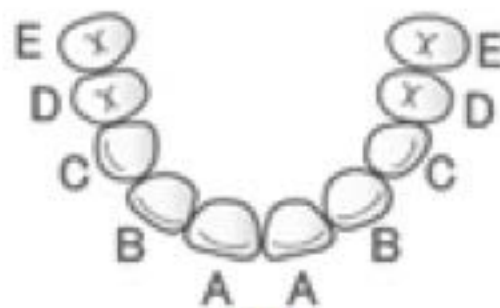
上の奥歯を複数本喪失する場合



虫歯などで抜歯



後ろの臼歯が前へ移動する



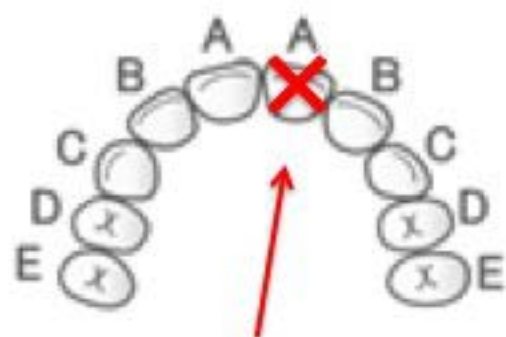
永久歯のはえるスペースがなくなる



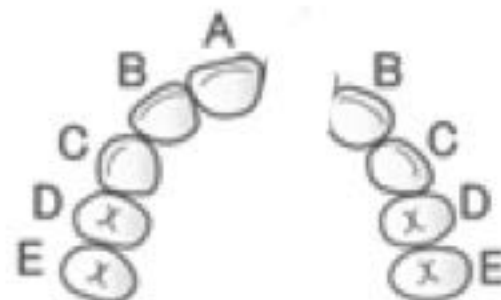
永久歯の歯並びが悪くなる



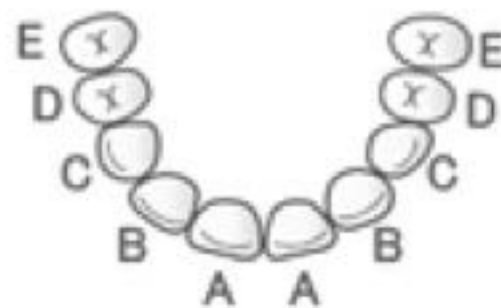
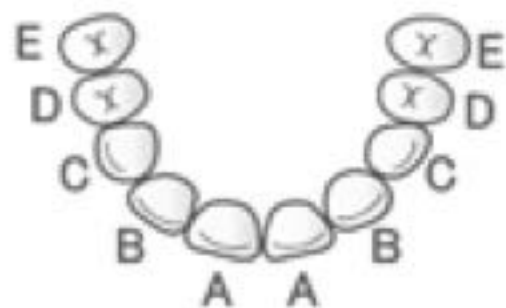
前歯を1本ないし複数本喪失する場合



外傷などで抜歯



審美性↓
発音↓
(空気漏れ)



見栄え、発音、舌癖、さらに
舌癖による永久歯の歯並びに影響の可能性

外傷による乳歯脱落

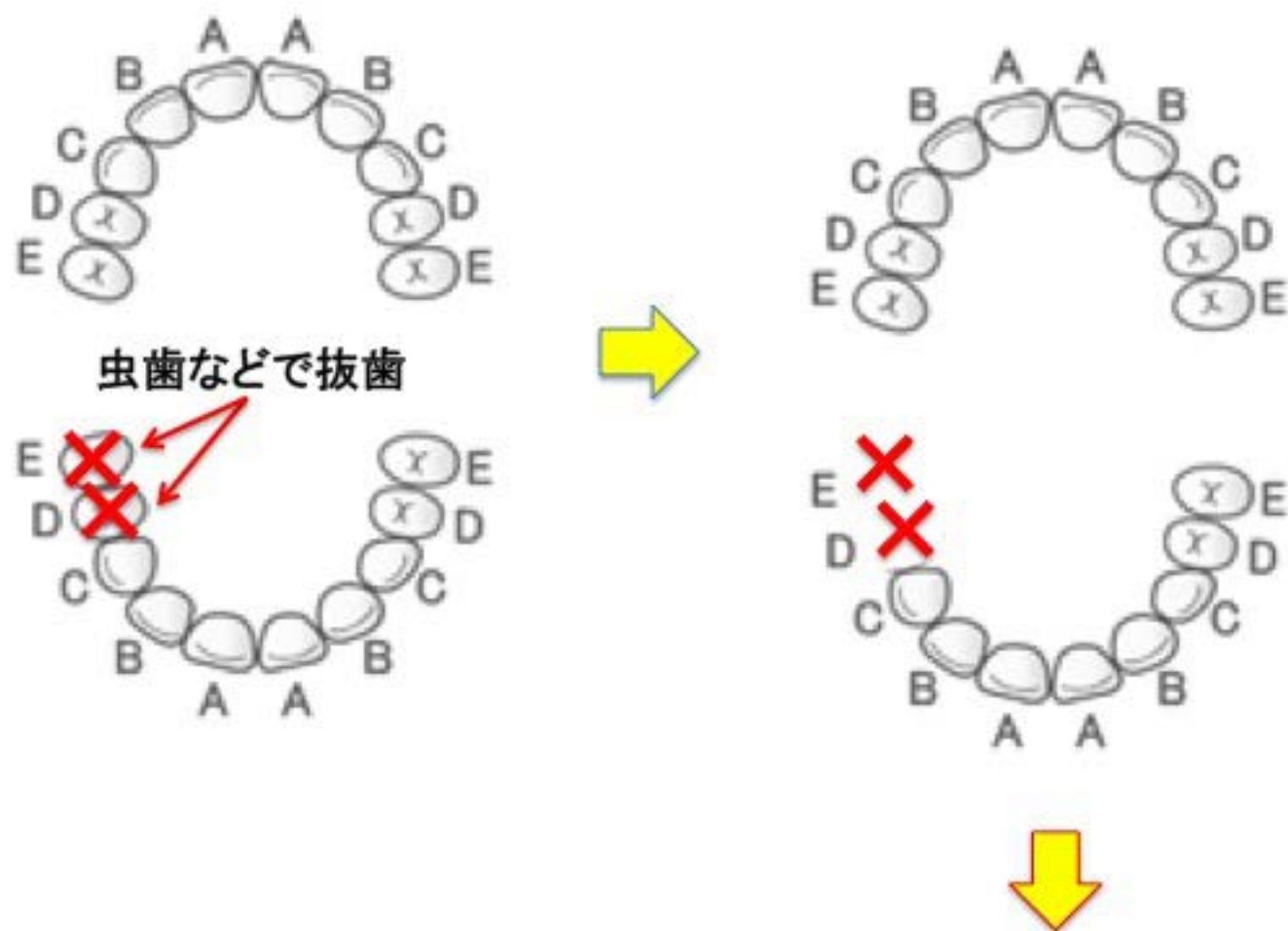
保険診療適応外



外傷による乳歯脱落
(取り外し式入れ歯)



奥歯を1本ないし複数本喪失する場合



咀嚼能力↓、対咬歯挺出、6移動、歯並び↓

虫歯によるE喪失
→6誘導

保険診療適応外



虫歯によるE喪失
→6誘導
→E保隙



まとめ

乳歯を抜かざるを得ないような大きなむし歯を作らない努力をすることが最優先ですが、乳歯抜歯を避けられないときはできるだけ永久歯を健全な状態で正しい位置に『誘導』することは、小児歯科分野にしかできない最も大きな役割です。

『保隙(ほげき)』という言葉が一般の患者様・保護者様にも今後益々浸透していきますよう、小児歯科医として心から願っております。

